

8 直腸脱合併骨盤臓器脱とレクトシールに対する TVM 手術の有用性

今川 健久・田畑 敏

市立砺波総合病院大腸肛門科

従来われわれは、直腸脱に膀胱脱や子宮脱、すなわち POP を合併した症例に対し、まず当科で直腸脱手術を行い、その後泌尿器科や婦人科に紹介していた。当院では 2006 年 4 月に女性骨盤底再建センターを設立し、2006 年 10 月から TVM 手術を導入して以来、直腸脱と POP 手術を一期的に行い良好な成績を得ている。また有症状のレクトシールには経腔的レクトシール手術、すなわち腔後壁補強手術を行ってきたが、その術後成績は満足できるものではなかった。これにも TVM-P 手術が有効で術後の満足度は良好である。女性

の直腸脱には直腸肛門のみならず骨盤全体の異常を合併している可能性があり、泌尿器科または婦人科と連携していくことによりわれわれ肛門外科医も女性骨盤底機能の改善に貢献できると考えている。今回、当センターで行っている TVM 手術について提示紹介する予定である。

Ⅲ. 特別講演

肛門疾患診療の実際

社会保険中央総合病院 副院長

大腸肛門病センター長

佐原 力三郎